

知ってますか
技術の

あれこれ

18

東日本大震災に思う(1)

リスボンの大地震とカント



三浦 基弘

MUURA Motohiro

元大東文化大学講師
土木学会100周年記念誌編集委員

東日本大震災がおきる

2011(平成23)年3月11日14時46分18秒。地面が大揺れ。筆者はこの日、種苗研究家の取材を終えた帰り、埼玉県飯能市のある蕎麦屋で、同行者の農家の古^{さなか}老と一緒に食事をしている最中の出来事であった。

この地震は、牡鹿半島(宮城県)の東南東130km、仙台市の東方70kmの太平洋沖の海底を震源とする。地震の規模は、マグニチュード9.0。日本周辺では、観測史上最大の地震。震源域は広大で岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmで、およそ10万km²とされる。最大震度は宮城県栗原市で観測された震度7で、宮城・福島・栃木・茨城の4県36市町村と仙台市内の1区(宮城野区)で震度6強を観測された。この地震は、東日本大震災と命名された。

リスボンの大地震

かつての調査で、世界の地震年表を作成したことがある。ヨーロッパでも大地震があった。今からほぼ260年前の1755年に起きたリスボン大地震(図-1)。11月1日午前9時40分、西ヨーロッパの広い範囲で強い揺れがあり、ポルトガルのリスボンを中心に大きな被害があった。震源はサン・ヴィセンテ岬の西南西約200kmと推定されている。マグニチュード8.5。この地震で、津波による死者を含めて6万人の犠牲者を出したといわれる。火災と津波で、語源が良港という意のリスボンは廃墟と化した。市内は幅5mの地割れが

発生し、多くの建造物は崩壊した。生き延びた市民は崩壊した建造物を避け、港の空き地に殺到した。ところが引いた海水が、地震から40分後に津波となって押し寄せ、水位があがり、港から市街地一帯を飲み込み、テージョ川を遡った。津波はその後2回市街地に押し寄せた。津波の影響を受けなかった地域では火の手が上がり、5日間燃え続けたという。リスボンの建造物の85%が破壊され、宮殿や図書館も失った。王立文書館に所蔵されていたヴァスコ・ダ・ガマらの大航海時代初期の航海者が遺した貴重な記録も流された。カルモ修道院(写真-1)は今も廃墟のまま、当時の災害の爪痕を残している。ポルトガルのほかの町でも同じような惨禍に見舞われたのである。これによりポルトガル経済は大打撃を受け、海外植民地への依存度を増した。国内の政治的緊張が高まるとともに、



図-1 リスボン大地震